

港区を良くする20の新アイデア

第2期・第5回 みなとーく ～ベストアイデアは誰の手に！？～

報告書



1人の専門家より、1万人の“素人の知恵”で行う街まちづくり

「みなとーく」 は港区をよりよくするために皆様とカジュアルに話し合う場です。

毎月1回街の問題を解消するワークショップを行っています。僕たちが住む港区には課題がたくさんあります。でもその一方で、いいところだってたくさんあります。

「みなとーく」では、街の課題と良いところの両面から、街をもっとよくするアイデアをたくさん出していただきます。そして、そのアイデアを実際に政策やプロジェクトとして実行するところまで行っています。第1期目の「みなとーく」では、子育て中のお母さんのためのイベント、「Happy Nappy Day」、若者を防災訓練施設に巻き込むためのイベント

「防災訓恋」、災害時のペットを助ける組合の設立など様々なプロジェクトが生まれています。

“批判や批評ではなく、アイデアで街をもっと盛り上げる”

そのために、誰でも参加しやすいリアルコミュニケーションを大切にしたい機会を作っています。

概要

●名称

第2期・第5回みなとーく
～ベストアイデアは誰の手に～

●開催日時

2015年12月5日(土)18時30分～21時

●参加者

14名



●タイムライン

- 1.アイスブレイク(自己紹介)
- 2.今回のみなとーくについて
- 3.これまでのみなとーく
- 4.グループワーク①
「まちづくりに必要な要素って？」
- 5.グループワーク②
「掛け算で生み出す！枯れないアイデア」
- 6.本日のベストアイデア発表

今回のみなとーくの“魅力”

① 掛け算でアイデアを生み出す。

これまでのみなとーくで出た案と、まちづくりに必要だと思う要素を掛け合わせ、アイデアを量産しました。

② ベストアイデアを決める。

「自分たちでやりま賞」（自分達で実現できそうなアイデア）、「行政にまかせま賞」（財政面や、制度的なことから、自分たちだけでは表現が難しそうなアイデア）という2つの賞を設け、出たアイデアの中からそれぞれ投票で最優秀賞を決めました！

③ 生まれたアイデアを実行する。

「自分たちでやりま賞」にノミネートされたアイデアを実行に移します。

生まれたアイデア 「自分たちでやりま賞」 編

最優秀賞

「ポップアップショップ情報提供」
ポップアップショップとは、空き店舗や普段は何もないスペースに一定期間限定で出店する仮店舗のこと。今までになかった場所に店舗を出すことで、商品やサービスの認知を高めたり、ユーザーとより密な関係を作ったりできる。それらの空き店舗の情報を、活動場所に困っている、社会貢献活動(まちづくり)に携わる個人、組織向けに提供するというアイデア。

ノミネート一覧

「家庭菜園マルシェ」
家庭菜園によってできた作物を集め、作った住民がマルシェ形式で販売。

「1人暮らしシニア合コン」
1人暮らしのシニア層のお食事会。

「外国人マイノリティ同士の交流カフェ」
外国人マイノリティが暮らしやすくなる。

「勝手にWebサイト」
港区にある老舗のお店や写真スポットなど、素敵だと思うものを区民が取り上げていくサイト。

生まれたアイデア

「自分たちでやりま賞」編

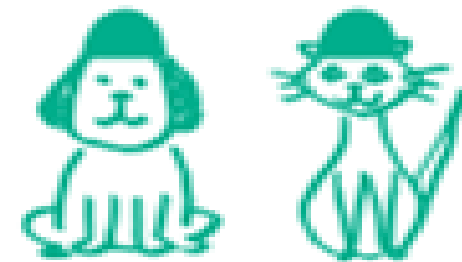
ノミネート一覧

「関わりパーティー」
自分と何かしら関わりのある人を連れてくるパーティー。様々なジャンル、年齢の人々が集まり、新たな交流が生まれる。

「おすそ分けポスト」
余りものを減らすため、ご近所同士でおすそ分けができるスペースを設置。

「インスタグラマラスバス」
写真共有アプリ「Instagram」にて、投稿すると話題になりそうな魅力スポットを回るバスを運行させる。

「ペット同伴訓練」
災害時に備えて、人だけでなく、ペットも同伴して防災訓練。



生まれたアイデア 「行政に頼りま賞」 編

最優秀賞 ※同票のため2つ

「年1若者招集役場」

年に1回、港区の若者を集めて港区の“これから”について話し合う会合。
民間で行っているものは多いが、行政が主催しているものは少ない。
行政が行うので意見が比較的反映されやすく、また若い時から行政との関わりを作れる。

「メインストリートプログラム」

メインストリート・プログラムとは、アメリカで生まれたダウンタウン再生の方法である。
社会復帰が難しい方々にプログラムに参加してもらうことで、復帰のきっかけになると同時に
まちの再生にも繋がる。



生まれたアイデア

「行政に頼りま賞」編

ノミネート一覧

「どこでも居酒屋」
ふらっと立ち寄り、お酒が楽しめる
場所を増やし、住民の交流の機会を増やす。

「車ゼロのまち」
自転車活用を推進させ、自動車での移動を
最小限に抑える取り組み。

「ペットレーン」
自転車レーンのペット版。

「住民協議会の設置」
行政が主催する住民の協議の場。
参加者はランダムに選ばれる。

「港区自給自足計画」
家庭菜園や敷地内農園を推進することで
港区に緑を増え、食育にも繋がる。
さらにできた作物をシェアすることで、
住民同士のコミュニケーションが生まれる。

「良いコト割」
ボランティア参加など、“良いこと”をすることで
ポイントが溜まっていき、港区内での買い
物の際に使用できる。



総括

今回初めての試みとして、「ベストアイデア」を決め、
“必ず実行する”という要素を取り入れました。

アイデアをそのままにしては何も変わりません。

行政の力が必要なものは提案し続け、自分たちでできることは実行していく。

この姿勢が1人ひとりに必要とされています。

自分たちのまちを変えていくのは自分自身。

1人でも多くの人が、主体的にまちづくりに携わっていけば
必ず何かしらの変化が起こります。

今後とも皆様と力を合わせて、よりよいまちづくりをしていけたら幸いです。

次回、「第5回みなと一く」は2月8日(月)に開催予定です。
当日詳細につきましては、後日Facebookページ「横尾としなりの会」
にて公開します。皆様のご参加お待ちしております。

横尾俊成事務所 スタッフ
